父ちゃんが母ちゃん、すよちゃんに分れ離れとする時、急に汽車が打切るのはあのにくい支那の兵隊です。母ちゃんとすよちゃんをしっかとゐだいて色々語り始めの様とする時はっと父ちゃんの目覚めは敵の打出す鉄砲や大砲の音でありました。父ちゃんがはっと自分の手にかけ、机を叩へ寝ぼけ居る兵隊さんに喧かゝ敵の弾にあたれて、童子の夢ではないかと二度と見まわし、次に軍車を引いたまゝ敵陽の飛ぶのを知らぬのか、何等なく立ち居る馬を見捨てゝ再び外濠をかぶりて、寝る時父ちゃんはどうしたら善いであろうか決して其の時は夢では有ません、父ちゃんは母ちゃん、すよちゃんに虎家の毒と長く、布えれるものではありません

コクヨの 16

十行 廿字詰

然るに東天明けんとする頃より日本の兵は攻撃を始め夫事が第